

## 新たな消防本部庁舎の整備について

### 1 趣旨

東日本大震災において、被災地の消防本部では、天井の崩落や通信用アンテナの破損、緊急消防援助隊をはじめとする他機関との調整スペースが不足するなどの事案が発生したことを踏まえ、改めて本市の消防本部庁舎が抱える課題が浮き彫りとなりました。

一方で、機能分散等の観点から、消防本部庁舎は新市庁舎には集約しない方針となったことを受け、大規模災害をはじめとする発災時の消火、救助など応急活動の中核となる消防本部の機能強化を図るため、新たな消防本部庁舎を整備するものです。

27年度は建物の規模、整備スケジュール及び事業費等を含めた基本計画を策定していきます。

### 2 現消防本部庁舎が抱える主な課題

- (1) 大規模災害時に緊急消防援助隊などの関係機関との調整及び災害対応の方針決定を行うための必要なスペースが十分でないことや、情報収集機能の中核である司令センターが消防本部と別棟であること（狭隘化における課題）
- (2) 耐震構造基準には適合しているものの、大規模地震発生時に建物内部や指令システムなどの重要機器が、揺れによる被害を受ける恐れがあること（機能継続性における課題）

### 3 新本部庁舎に求められる主な機能

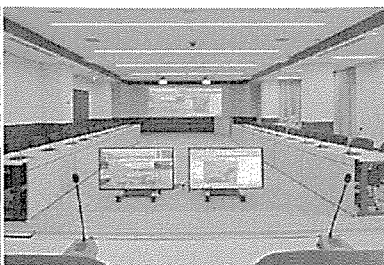
- (1) 迅速かつ機動的に消防機能を発揮できる庁舎

※写真はイメージ

先進の指令システムを駆使し、災害監視カメラやヘリコプターからの映像を活用した高度な情報処理を行う「消防本部運営室」及び迅速な意思決定ができる「消防本部会議室」を設置するほか、緊急消防援助隊等と連携した災害活動を行うための情報提供や調整を行う「関係機関執務室」等を設置し、本部機能の充実強化を図ります。



本部運営室



本部会議室



関係機関執務室

機動的な救助活動等ができるヘリコプターの「緊急離発着場」をはじめ、本部直轄の特別高度救助部隊（通称「SR」）や緊急消防援助隊が災害の状況に適應した資機材を素早く選択・搭載できる「機能的格納スペース」を整備し、災害対応能力を向上させます。



ヘリポート（緊急離発着場）

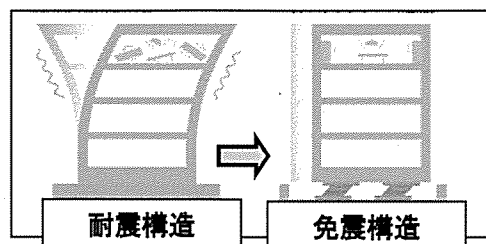


機能的格納スペース（迅速な出動が可能）



## (2) 大規模災害にも消防機能を継続発揮できる庁舎

機械室等を上階配置とする浸水対策のほか、より高い耐震性を確保するための「免震構造」などを採用することで、重要機器等の安全性を高め、災害発生直後から消防本部機能が継続して十分に発揮できる庁舎とします。



## (3) 安心・信頼を実感できる庁舎

「SR」や「司令センター」等の視察をはじめ、火災原因の鑑定を行う「消防科学研究室」を一部公開することにより、市民の皆様身近に「消防」に触れてもらうことで、火災予防等に関する啓発を行うとともに、「生活の安心感」を実感できる機能を持たせます。



消防本部視察 (SR、司令センター)

消防科学研究室 (火災原因の鑑定)

## 4 新本部庁舎の整備場所

新たな本部庁舎は、次の条件などを満たす、現在の保土ヶ谷区総合庁舎の敷地内を整備場所として検討を進めています。

- ・ 経費負担が軽減できるよう、市有地であること
- ・ 建ぺい率や容積率など、必要な庁舎規模が建築できること
- ・ 市内全域へのアクセスに優れていること
- ・ 消防、救急無線の根幹となるアンテナや、災害監視カメラが設置されたランドマークタワーと接続する既存の主要な回線が、継続して活用できること

なお、本部と保土ヶ谷消防署を合築とする場合、配置車両が多く、安全で迅速な災害出場に必要なスペースが確保できないことから、保土ヶ谷消防署は近隣の市有地への移転整備を予定しています。

移転候補地については、関係局と調整を行いながら、今後決定していきます。

